

連載「ジオと喜界島」

第3回「ジオと阿伝集落」

喜界島サンゴ礁科学研究所：嶋田姫由

今回は、阿伝サンゴの石垣保存会でご活躍され、阿伝にお住いの武田秀伸さんにお話を伺いました。

—海と急な崖に挟まれた場所に、なぜ阿伝集落が形成されたのでしょうか？—

武田：阿伝は海からの距離が近く、台風の影響を受けやすい厳しい場所に思われます。しかし、台風の度に海岸に打ち上げられるサンゴの石があることや、石を積む職人が集落にいたことで、高い石垣を作って風を防ぐことができました。集落の石垣は、暴風から家を守るために海に近い民家ほど高く積まれていたり、集落に入る風を弱めるために緩やかな曲線を描いて積まれていたり、いろいろな工夫が見られます。

また、海に近い集落ですが各家庭には井戸があり、簡単に真水を得ることができました。それは、集落の地下がすき間の多いサンゴの化石でできていて、地下水が溜まりやすいためです。一方で、集落の西側にそびえる崖の下からは、常に水が湧き出しています。

昔はこの水を利用して、隣同士や集落全体で助け合いながらコメ作りを

していました。水でけんかにならないように田に水を引く水番をする人もいたんですよ。阿伝は、生活するための水に恵まれた土地なんです。

集落に崖が迫っているということは、実は生活をするためにはとても便利だったかもしれません。崖の林からは、煮炊きするための薪を拾うこともできました。さらに、海岸沿いの道路が整備される前は、崖を上って山越えをして島の反対側と行き来して高校にも通っていたんですよ。

—海と急な崖に挟まれた場所は、実は便利だったというお話は驚きでした！阿伝はその土地(ジオ)を上手に利用して発展してきたのですね！最後に武田さんが感じる阿伝の魅力を教えてください！—

武田：集落全体が国立公園に指定されていることが一番の魅力ではと思います。今ある自然や石垣をどのように残していくのかが今後の課題です。また、長寿の方が多くいるので、いろいろ話を聞いてみると面白いと思います。



海のすぐ近くにある阿伝集落を、西側の崖の上より望む。